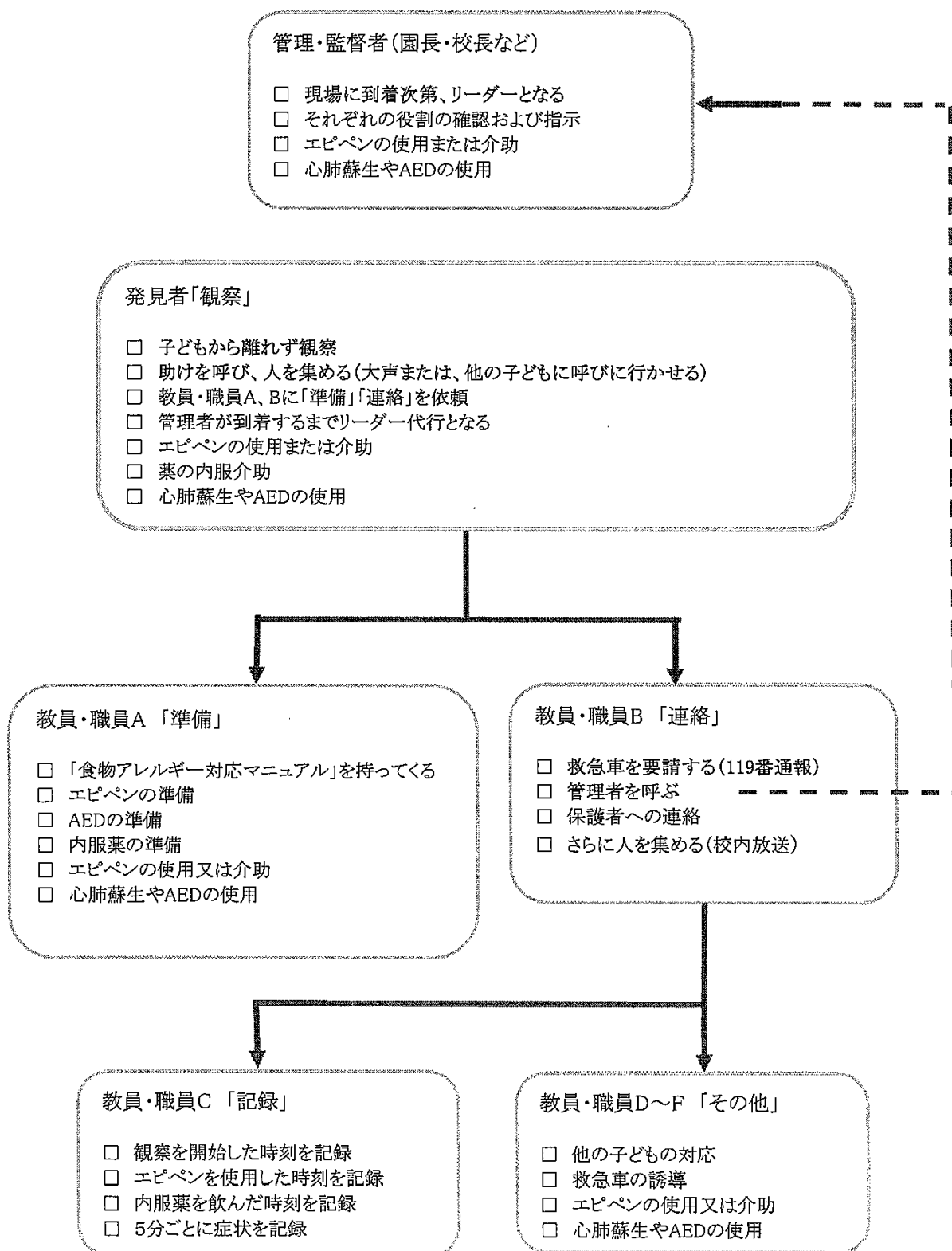


A 施設内での役割分担

- ◆ 各々の役割分担を確認し、事前にシミュレーションを行う



B 緊急性の判断と対応

- ◆ アレルギー症状があったら5分以内に判断する。
- ◆ 迷ったらエピペンを打つ！

B-1 緊急性が高いアレルギー症状

- | 【全身の症状】 | 【呼吸器の症状】 | 【消化器の症状】 |
|--|--|--|
| ☐ ぐったり | ☐ のどや胸が締め付けられる | ☐ 持続する強い(がまんできない)おなかの痛み |
| ☐ 意識もうろう | ☐ 声がかすれる | ☐ 繰り返し吐き続ける |
| ☐ 尿や便をもらす | ☐ 犬が吠えるような咳 | |
| ☐ 脈が触れにくい
または不規則 | ☐ 息がしにくい | |
| ☐ 唇や爪が白い | ☐ 持続する強い咳き込み | |
| | ☐ ゼーゼーする呼吸
(ぜん息発作と区別できない場合を含む) | |



1つでも当てはまる場合



ない場合

B-2 緊急性が高いアレルギー症状への対応

- ①ただちにエピペンを使用する
➡ C エピペンの使い方
 - ②救急車を要請する(119番通報)
➡ D 救急要請のポイント
 - ③その場で安静にする(下記の体位を参照)
立たせたり、歩かせたりしない！
 - ④その場で救急隊を待つ
 - ⑤可能なら内服薬を飲ませる
- ◆エピペンを使用し10～15分後にしよじょうの改善が見られない場合は、次のエピペンを使用する(2本以上ある場合)
- ◆反応がなく、呼吸がなければ心肺蘇生を行う
➡ E 心肺蘇生とAEDの手順

内服薬を飲ませる



保健室または、安静にできる場所へ移動する



5分毎に症状を観察し、
症状チェックシートに従い
判断し、対応する。緊急
性が高いアレルギー症状
の出現には特に注意する

F 症状チェックシート

安静を保つ体位

〈ぐったり、意識もうろうの場合〉
・血圧が低下している可能性があるため仰向けで足を15～30cm高くする

〈吐き気、嘔吐がある場合〉
・嘔吐物による窒息を防ぐため、体と顔を横に向ける

〈呼吸が苦しく仰向けになれない場合〉
・呼吸を楽にするため、上半身を起こし後ろに寄りかからせる。

C エピペンの使い方

◆ それぞれの動作を声に出し、確認しながら行う

① ケースから取り出す

ケースのカバーキャップを開ける
エピペンを取り出す

介助者がいる場合

介助者は、子どもの太ももの
付け根と膝をしっかりと抑え、動かない
ように固定する

② しっかり握る

オレンジ色のニードルカバーを
下に向け、利き手で持つ

注射する部位

- ・衣類の上から、打つことが出来る
- ・太ももの付け根と膝の中央部で、
かつ真ん中よりやや外側に注射する

③ 安全キャップを外す

青い安全キャップを外す

④ 太ももに注射する

太ももの外側に、エピペンの先端
(オレンジ色の部分)を軽くあて、
・カチッと音がするまで強く押し
あててそのまま5つ数える
注射した後すぐに抜かない！

⑤ 確認する

エピペンを太ももから離しオレンジ
色のニードルカバーが伸びて
いるか確認する

⑥ マッサージする

打った部位を10秒間、
マッサージする

D 救急要請(119番通報)のポイント

◆あわてず、ゆっくり、正確に伝える

①救急であることを伝える

②救急車が来て欲しい住所を伝える

③「いつ、だれが、どうして、現在どのような状態なのか」をわかる
範囲で伝える

エピペンの処方やエピペンの使用の有無を伝える

④通報している人の氏名と連絡先を伝える。

119番通報後も連絡可能な電話番号を伝える

※向かっている救急隊から、その後の状態確認等のため電話がかかってくることもある

- ・通報時に伝えた連絡先の電話は、常につながるようにしておく
- ・その際、救急隊が到着するまでの応急手当の方法などを必要に応じて聞く

F 症状チェックシート

◆症状は急激に変化することがあるため、5分ごとに、注意深く症状を観察する

◆☐の症状が1つでもあてはまる場合、エピペンを使用する

(内服薬を飲んだ後にエピペンを使用しても問題ない)

観察を開始した時刻(時 分)内服した時刻(時 分)エピペンを使用した時刻(時 分)

全身の
症状

- ☐ぐったり
- ☐意識もうろう
- ☐尿や便を漏らす
- ☐脈が触れにくいまたは不規則
- ☐唇や爪が青白い

呼吸器
の症状

- ☐のどや胸が締め付けられる
- ☐声がかすれる
- ☐犬が吠えるような咳
- ☐息がしにくい
- ☐持続する強い咳き込み
- ☐ゼーゼーする呼吸
- ☐数回の軽い咳

消化器
の症状

- ☐持続する強い(がまんできない)お腹の痛み
- ☐繰り返す吐き続ける
- ☐中程度のお腹の痛み
- ☐1～2回の嘔吐
- ☐1～2回の下痢
- ☐軽いお腹の痛み(がまんできる)
- ☐吐き気

目・口・
鼻・顔面
の症状

- ☐顔全体の腫れ
- ☐まぶたの腫れ
- ☐目のかゆみ、充血
- ☐口の中の違和感、唇の腫れ
- ☐くしゃみ、鼻水、鼻づまり

皮膚の
症状

上記の症状が
1つでもあてはまる場合

- ☐強いかゆみ
- ☐全身に広がるじんま疹
- ☐全身が真っ赤
- ☐軽度のかゆみ
- ☐数個のじんま疹
- ☐部分的な赤み

1つでもあてはまる場合

1つでもあてはまる場合

- ①ただちにエピペンを使用する
- ②救急車を要請する
(119番通報)
- ③その場で安静を保つ
(立たせたり、歩かせたりしない)
- ④その場で救急隊を待つ
- ⑤可能なら内服薬を飲ませる

B 緊急性の判断と対応B-2参照

ただちに救急車で
医療機関へ搬送

- ①内服薬を飲ませ、エピペンを準備する
- ②速やかに医療機関を受診する
(救急車の要請も考慮)
- ③医療機関に到着するまで、5分毎に症状の変化を観察し、☐の症状が1つでもあてはまる場合、エピペンを使用する。

速やかに
医療機関を受診する

- ①内服薬を飲ませる
- ②少なくとも1時間は5分毎に症状の変化を観察し、症状の改善がみられない場合は医療機関を受診する

安静にし、
注意深く経過観察